

推 奨 実 践 事 例

事例番号 5 - 2

友達の思いや願いを受け入れながらよりよい学級生活をつくりだす学級集団の育成

— 学級目標を意識させた活動を通して —

新潟県新潟市立有明台小学校 江 部 壮 彦

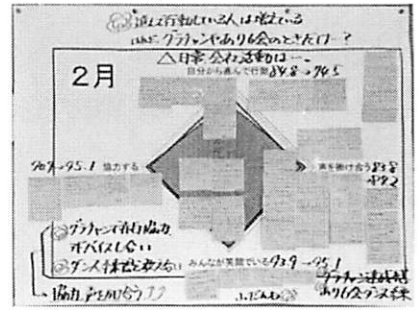
実践テーマ	友達の思いや願いを受け入れながらよりよい学級生活をつくりだす学級集団の育成 ～学級目標を意識させた活動を通して～
実践区分 ○囲み	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px; display: inline-block;">学級活動・ホームルーム活動</div> 児童会・生徒会活動 クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、)
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>学級活動では、相手の思いや願いを受け入れ、相手の立場や考え方を理解して、話し合い活動や実践を行うことが重要であると考えます。</p> <p>しかし、話し合いで一人一人が意見を出して活動をつくりあげる経験が少ないまま高学年になると、「学級の課題を把握しようとしたり、目を向けようとしたりしない」「活動に対する意欲が低い」という様子が見られる。また、単学級では、人間関係が固定された中で毎日を過ごすため、学級をよりよくしていこうという気持ちが薄い。実践を行った学級は、単学級の6学年だった。何かの活動の時は、誰とでも活動することができるのだが、自分の心配な気持ちや不安に感じることを出す姿はなかなか見られず、淡々と活動する集団だった。</p> <p>そこで、学級目標を振り返って学級の課題を全体で把握させたり、学級会でそれぞれの思いや願いを共有させたりすることで、相手の思いや願いを受け入れながらよりよい学級生活をつくりだす学級集団になるのではないかと考えた。そこで、まず、学級目標をレーダーチャートとして児童に提示し、学級を振り返りながら学級の実態を考えさせる。学級の実態から学級をよりよくする活動を行うために、学級会をする際は、自分や友達の思いや願いに気付かせる話し合いをする。そして、学級会では、出された思いや願いを共有させ、分かり合わせたり、つなげ合わせたりする。それぞれの思いや願いに気付き合う話し合い活動の機会を設定することで、レーダーチャートの振り返りの時には表れない児童一人一人の思いや願いを明らかにしていく。</p>
実践の時期	平成29年3月

1. 研究の内容と方法

(1) 内容

手立て① 学級目標のレーダーチャートを基にし、活動や学級を振り返る場面の設定

1か月ごとに、学級目標「スターバルーンズ～自分から進んで 声を掛け合う 協力する みんなが笑顔～」の「自分から進んで」「声を掛け合う」「協力する」「みんなが笑顔」の4つの項目を数値化し、レーダーチャートにする。そのレーダーチャートを掲示し、活動や自分たちの姿を振り返り、学級の実態を付箋（よい…赤色 課題…青色）に書いて貼っていく。そうすることで、自分たちの学級の成長したことや課題となることが視覚的に分かり、新たな活動に取り組む時によりよいものにしていこうとする視点となる。そのような視点があることで、学級の課題を把握したり、活動の意欲につながったりするのではないかと考えた。



(実践時のレーダーチャート)

手立て② 児童の思いや願いを共有する学級会の設定

話し合う前、過去の活動を振り返り、学級の実態や具体的な場面を想起させ、その時の思いを意見カードに書かせる。話し合い中は、意見が出た時に、過去の活動の様子や具体的な場面を想起させたり、学級の実態を考えさせたりして、同じような経験や考えを出し合い共有する。意見をまとめる時は、出された思いや願いをつながげながら板書していき、どのような思いや願いをもっているかを明らかにしていく。このようにすることで、レーダーチャートでの振り返りの時には表れない思いや願いが明らかになり、それを受け入れながら活動をよりよくするために話し合っていくのではないかと考えた。

(2) 検証方法

児童の活動の様子や振り返りカードの記述などから見られる児童の変容の考察

2. 活動の実際

活動名：最後までみんなが笑顔！！スターバルーンズ卒業パーティー！！

児童A：自分の思いをもっているが、全体で話し合う時にそれを出したり、それを行動に表したりすることが得意でない。学級会の意見カードに、12月のお楽しみ会の様子を振り返り、「決めたことを意識したけど、行動に移さずただやっていただけ。具体的な行動は考えられないけど、行動に移したい。」と書いていた。

① 活動の様子と児童の変容

活動を振り返る場面

自分から進んで	84.8 (12月) → 74.5 (2月)	声を掛け合う	83.8 (12月) → 89.2 (2月)
みんなが笑顔	93.9 (12月) → 95.1 (2月)	協力する	90.9 (12月) → 95.1 (2月)

レーダーチャートを提示し、冬休み明けの学級の様子（長縄大会の練習や6年生を送る会の出し物の準備）を振り返った。児童が、『自分から進んで』の数値が下がっていることに目を向けたので、学級の実態が出るように発言を促した。すると、児童は「活動や学級の雰囲気をよくするために進んで行動する人が増えた」と実感していることが分かった。レーダーチャートの振り返りを繰り返し行うことで、自分たちの課題を意識しながら学校生活を送れるようになってきたと言える。

しかし、「日常生活や係活動で、自分から進んで行動していない人がまだいる」という課題も出された。そこで、卒業までに自分たちはどのような活動をする必要があるのかを話し合った。雰囲気をよくしてくれる人が増えているという学級の成長を踏まえ、『みんなが笑顔』を高めて卒業しよう」ということになった。

手立て①を講じたことで、「みんなが笑顔で卒業できるように、思い出に残るスターバルーンズパーティーがしたい」という思いが高まり、活動がスタートした。

学級会の場面

レーダーチャートで振り返りをした時の思いから、学級会では、「みんなが笑顔で卒業ができるように、どのようなことを大切にして、スターバルーンズパーティーをするのかを決めよう」という議題で話し合った。

話合いの途中、児童Aの思いを明らかにするために発言を促したところ、Aは少しずつ自分の思いを出し始めた。その後、周りの児童に、同じような思いをし

※活動の振り返りの様子（一部抜粋）

C:自分たちは、係や委員会でも進んで行動できるようになってきているのに、『自分から進んで』が下がったのはどうしてだろう。

T:学級の様子を振り返ってみると、どうですか。

C:長縄大会の練習で、引っかかった人に「ドンマイ。〇〇すると跳びやすいよ。」とアドバイスをする人がいた。

C:係の活動を積極的にやったり、普段の生活で学級の雰囲気をよくしたりしてくれる人がいた。

(中略)

T:卒業まで、あと1か月くらいしかないけれど、このクラスにとって、どのような活動をする必要がありますか。

C:最後の活動だし、みんなが笑顔になるような活動がしたい。

C:学級の雰囲気をよくしてくれる人が増えたし、もっとみんなが笑顔になるような活動をした方がいい。

C:卒業が近いし、違う中学校に行く人もいる。最後のお楽しみ会をして思い出を作りたい。

※学級会の様子（一部抜粋）

T:Aさんは、何か意見はありますか。

A:前のお楽しみ会では、「みんなの思い」を意識していたから、お楽しみ会は楽しかった。だけど、行動に表せなくて他人任せにしてしまったので、今回も一人一人の思いを大切にしたい。

T:なぜ、行動に表せなかったのですか。

A:自信がなかった。

(中略)

司会:小グループで話し合った時にわかった他の人の気持ちや話した

たことはないかを聞くと、10人近くの児童が挙手した。挙手した児童に思いを聞いたが、全体の場ではなかなか自分の思いを話すことはできなかった。そこで、それぞれの思いを明らかにするために「自信をもって行動するために、今の学級にとって大切なことは何か」を小グループで話し合わせ、その後、もう一度全体で話し合った。

下線部は、小グループの話合いの時に、「なんで、あまり自信がないの？」と自信がない人の思いを具体的に聞いていた児童が、友達から聞いた話や自分が見ていたことを全体に広めている発言である。手立て②により、自分が経験したことでなくても、相手に寄り添うことができた。そのため、その人の思いも受け入れることができたので、話合い中にこのような発言があったと考えられる。

3. 成果・課題

Aの振り返りに、「学級会や話合いの時に、自分が思っている気持ちをいろいろな人に話したのは初めてだと思う。自分の気持ちに向き合えてよかった。」と成長点が書かれていた。実際に、お楽しみ会の準備の時、Aは、周りの児童に「この絵をもっと大きくした方が見やすくなるんじゃない。」と意見を言っていた。Aは、自信をもって意見を言うことができるようになった。それに対して、周りの児童は、Aの意見をしっかりと聞いていた。Aが学級会で思いを明らかにしたことで、周りの児童は、活動中も相手の思いを受け入れることができるようになった。手立て①の「学級目標のレーダーチャートを基にした振り返り」により、学級の課題を意識したり、手立て②の「思いや願いを共有する学級会」により、明らかになった友達の思いや願いを受け入れたりすることで、活動をよりよくするために行動できる学級集団に近づいた。

今回の実践では、年度当初に「卒業までに目指す姿」を児童に考えさせ、そこから児童の視点でレーダーチャートの項目を作った。振り返りを繰り返し行くと、「自分から進んで行動できるようになるとみんなが笑顔になる」など、1つの項目を意識すると他の項目も高まるのではないかという考えが、児童から何度か出てきた。今後も実践を繰り返し行い、項目同士の関連性を探っていきたい。

ことを踏まえて、どのようなことを大切にしたいですか。

C: 人を受け入れる気持ちを大切にしたい。前にケンカのようになった時、事情を知っている人だけでなく、事情を知らない人にもいろいろ言われていて雰囲気が悪くなっていた。自信がない人もいるわけだから、人の意見を受け入れて、自信をもてるようにした方がいいと思う。

T: 同じような状況を経験したことがある人はいますか。

C: 意見を言って間違った時に、周りの人が笑うから、何を言えばいいのかわからなくなって自信がなくなっていく。だから、みんなの意見を受け入れた方がいいと思う。

C: あまり意見が言えない人や自信がない人に聞いてみたら、仕切ることができる人が仕切ってしまうから、その人に意見に流されると言っていた。あまり意見の言えない人や自信がない人の意見も聞いて受け入れることが大切だと思う。